



赤旗 読者通信 改題

2022. 6. 19  
通巻No. 1562

日本共産党  
小矢部市委員会

市内七社 245  
Tel 67-4322  
Fax 67-4842

何でも  
ご相談を



市議会議員  
**砂田喜昭**  
Tel 67-4322



参議院議員  
**たけだ良介**



市議予定候補  
**上田由美子**  
禁無断転載  
複写配布

## 7月分から

小矢部市は6月議会に、水道料金1立方メートル3円の値下げを提案しました。議決されれば、7月分から値下げとなり、基本水量10立方メートルで1、590円（税抜価格）となります。

県企業局から水道用水を購入している県西部4市（小矢部市、高岡市、射水市、氷見市）で今回も値下げをするのは小矢部市だけです。その結果、市の水道料金は2004年の1、870円から5回の値下げで280円安くなりました（下表参照）。

### 県企業局の料金改定を受けて

県企業局は今年度から責任水量制（県から割り当てられた水量を購入しなればならない）を、2部料金制に改めました。基礎水量（一日3100立方メートル）の「基本料金（1立方メートル60円）」と、使用水量（4、899立方メートル）に応じて払う「従量料金（1立方メートル20円）」の2本立てになります。この結果、受水費は1、447万8千円少なくなります。

一方、市は料金値下げで年間約600万円の減収となります。今年度は7月から値下げの予定で450万円の減収見込みです。

# 今年も水道料金の値下げへ

## 2003年 署名運動が引き下げに貢献

小矢部市では2003年8月に「水道料金の値下げを求める会（代表・八尾三紀夫氏）」が「水道料金値下げ署名運動」を始め、12月には大家市長（当時）に600名分の署名を提出しました。2005年12月にも1、113筆の署名を提出、さらに県知事にも高岡市、氷見市の住民代表とともに6、371筆の署名を提出し、値下げを働きかけました。

### 市長や議会にも影響を与える

こうした住民運動の盛り上がりのもと、市議会では砂田議員をはじめ他の議員たちも一般質問や委員会質問で取り上げました。県知事の「まちまわり」（2003年10月）では、大家市長（当時）も知事に値下げを求めるなど、議会や市あげての取り組みになりました。中沖知事（当時）が「値下げも検討」と述べ、注目されました。

## 2004年 史上初、ついに県が値下げへ

### 「水道料の値下げを期待して」

県は2004年、ついに県水単価の値下げをしました。史上初のことです。しかし、市は水道料金値下げをしませんでした。「水道料金の値下げを求める会」は、2005年12月の県企業局との交渉で、『県水単価の値下げは水道料金値下げを期待したものだ』との回答を引き出しました。

## 2004年 砂田市議、予算修正提案

市議会では、砂田市議が2004年3月議会予算特別委員会に、県が引き下げた分を活用して水道料金を引き下げることができるとして、予算修正案を提出しました。委員会では地方自治法上、一人でも修正提案ができる仕組みになっており、これを活用しました。当時この模様がケーブルテレビで実況中継され、市民から「表（予算修正案）を使っての質問は良かった」などの声が寄せられました。

## 2006年 市は2年前の分と合わせて そっくり水道料金値下げへ

こうした取り組みの結果、小矢部市では2006年に2年前の県水値下げ分を合わせて単価1立方メートル10円の値下げとなりました。その後、県が値下げした分を市民の水道料金値下げにまわすようになりました。市民の声と運動が政治を変えます。

水道料金の推移（税抜き・単位円）

年度	2004年	2006年	2008年	2011年	2014年	2022年	2004年比
基本水量 10立方メートル	1870	1770	1720	1670	1620	1590	-280
1立方メートル 値下げ分	0	10	5	5	5	3	-28



## 2022年

### 原水爆禁止国民平和大行進

#### 「核を共有」ではなく 「被爆者の魂を共有」へ

日本山妙法寺の僧侶も参加

原水爆禁止国民平和大行進が6月10日、11日小矢部市を歩き、俱利伽羅峠で石川県へ引き継ぎました。今年の平和行進には日本山妙法寺の僧侶も参加され、そのあいさつで「1953年一人の僧侶が広島から東京へ原水爆禁止を訴えて歩き始めた。東京日比谷公園に着いたときには5千人に膨れ上がった。『核を共有』ではなく『被爆者の魂を共有しよう』と呼びかけられました。」



あいさつする日本山妙法寺の僧侶 = 6月11日、俱利伽羅峠